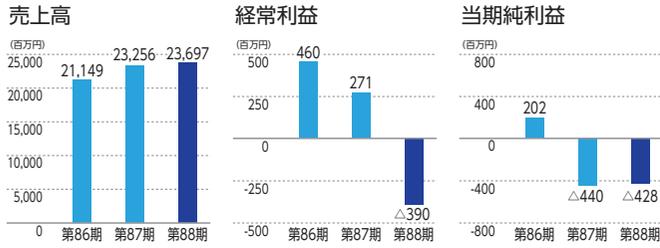


決算ハイライト



自動車部品事業

乗用車、トラック、建機の内外装部品を各メーカーに供給。シート、布、フィルム、塗装等の加飾技術による高付加価値製品の提供。開発・設計から量産までの一貫体制で対応。

売上高 **12,842百万円**

国内自動車部門におきましては、中東向け乗用車部品およびトラックが堅調に推移したものの、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動を受け、売上高は減少しました。



一方、海外自動車部門におきましては、タイでの補助金廃止の反動や政治的混乱による影響により、自動車生産/販売台数が急減したことで低迷が続きましたが、新規に連結したECHO ADVANCED TECHNOLOGY INDONESIA社を含めたことにより、売上高は増加しました。

住宅設備・冷機部品事業

キッチン、トイレ、バスなど水周りに活用される洗面化粧キャビネット、浴室キャビネット、洗濯機パン、浴室天井などの樹脂製品を供給。



OEM供給により国内シェアの過半数を確保。

売上高 **9,099百万円**

国内住宅設備部門におきましては、消費税率引き上げ前における駆け込み需要の反動減の下支え策として、政府による各種住宅取得支援策が実施されておりますが、住宅着工戸数は前年度より9.0%減少しました。このような厳しい状況下ではありますが、新製品等の受注に努めた結果、売上高は微増となりました。

また、海外冷機部品部門におきましては、THAI KODAMA(VIETNAM)社の冷蔵庫部品の売上が僅かながら減少したものの、THAI KODAMA社では堅調に推移し、売上高が増加しました。

エンターテインメント&物流資材事業

ゲーム用パッケージ、自動車部品用トレーなどの樹脂製品を供給。

売上高 **1,126百万円**

映像用ソフトパッケージの受注が好調に推移し、また物流資材の新規受注があったものの、ゲーム用ソフトパッケージの受注が減少し、その結果売上高は減少しました。

その他事業

売上高 **629百万円**

中国の無錫普拉那塑膠有限公司で農業用トラクター部品や建設機械用部品、浴室関連製品が堅調に推移し、売上高は大幅に増加となりました。

会社概要・株式情報

会社概要		平成27年3月31日現在
商号	児玉化学工業株式会社	
(英 文 名)	KODAMA CHEMICAL INDUSTRY CO.,LTD.	
設 立	昭和21年3月8日	
資 本 金	30億21百万円	
役員		平成27年6月26日現在
代表取締役社長	豊島 哲郎	取締役 江頭 明彦
代表取締役	大野 英雄	取締役 中場 元司
取締役	原 弘	社外取締役 高橋 雅也
取締役	斉木 均	社外取締役 森本 雄二
株式の状況		平成27年3月31日現在
発行可能株式総数	100,000,000株	
発行済株式の総数	29,872,076株 (自己株式282,335株を除く)	
株 主 数	4,053名	

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-7111 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.kodama-chemical.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 上場株式等の配当・譲渡所得等に係る税率は、平成25年12月31日まで10%(所得税7%、住民税3%)の軽減税率が適用されておりましたが、平成26年1月1日から軽減税率が廃止され、20%(所得税15%、住民税5%)の税率となっております。

WEBサイトのご案内

当社ホームページでは、企業情報や最新のIR情報など、幅広い情報を提供しております。

<http://www.kodama-chemical.co.jp/>

児玉化学工業

検索



BUSINESS REPORT

第88期 ビジネスレポート

平成26年4月1日～平成27年3月31日



児玉化学工業株式会社

証券コード：4222

■ 新社長インタビュー

○ごあいさつ

いかなる経営環境であっても
利益を確保し得る
強固な経営基盤の確立を目指します。

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに児玉化学工業株式会社第88期（平成26年4月1日～平成27年3月31日）の「ビジネスレポート」をお届けいたします。

当社グループの取引先である自動車業界においては、国内が消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動で停滞が続き、海外は北米で堅調であったものの、タイでは自動車購入支援策の停止により低迷が続き、ASEAN地域においても伸び悩みが見られました。住宅設備関連業界においては、消費税率引き上げ前の駆け込み需要の反動減が著しく、新設住宅着工戸数は前年度を下回る結果となっています。冷機部品においては、タイで低迷したものの、ASEAN地域で堅調に推移しました。

このような状況の下、当社グループは中期経営計画の2年目として、「ASEAN地域の事業拡大」「事業構造改革の断行による収益力強化」「グローバル支援体制の構築」の強化を目指し、ECHO ADVANCED TECHNOLOGY INDONESIA社の立ち上げと量産の安定化、THAI KODAMA (VIETNAM) 社の増産対応と顧客拡大、タイ経済縮小に対応したTHAI KODAMA社およびECHO AUTOPARTS (THAILAND) 社の組織管理体制の見直しを進めました。国内では高付加価値製品の受注拡大、生産革新を推進しました。なお、インドネシアにおいて、自動車メーカーの立ち上げが大幅に遅れ、現地子会社の操業度が著しく低下することとなりました。

当社グループは、企業としての責任を果たすため、安全操業の確保、内部統制システムの拡充、コンプライアンスの遵守およびリスク管理の強化などに取り組むとともに、いかなる経営環境にあっても、利益を確保し得る経営基盤の確立を目指し、より強固な体質づくりを進めています。

なお、中期経営計画の最終年度となる平成28年3月期の業績については、諸般の事情から当初の目標を下回る連結売上高250億円、営業利益5億円を見込んでいます。引き続き、海外



では事業収益拡大、国内では事業再構築と生産革新を実行することで、事業基盤を確固たるものにしてまいりたい所存です。

株主の皆様には、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成27年6月
代表取締役社長
豊島哲郎

Q ご就任おめでとうございます。
今の率直な感想と抱負からお聞かせください。

当社は三菱ケミカルホールディングスの各社と関係が深く、私もその一人として児玉化学工業に関わってきた経緯があり、2010年より取締役の一翼を担ってきました。児玉化学工業はおよそ70年の歴史と伝統のある会社です。過去には負の遺産もありましたが、これまでにほぼ整理が出来ましたので、伝統を生かしつつ新たな児玉化学として蘇らせるのが私の使命だと考えています。

Q 児玉化学工業の強みと課題をどのように
とらえていますか？

児玉化学工業は、プラスチックの可能性にいち早く着目し、戦後まもなく冷蔵庫内装品などの真空成形を手掛けました。30年前にはTHAI KODAMA社を設立、現地に製造拠点を移し、海外展開の先鞭をつけています。

住宅設備は、大手住宅設備メーカー向け、洗面化粧台に加え多機能便座の成形品の生産を行っており、国内だけでなく当社が2002年に中国江蘇省に設立した無錫普拉那塑膠有限公司はその中国拠点となっています。

自動車部品の製造では2015年4月からタイで大手自動車メーカーの世界戦略プロジェクトへの部品を立ち上げており、12月からはインドネシアでも同様の立上げのための準備が進行しており、ASEAN地域で展開するECHO AUTOPARTS(THAILAND)社およびECHO ADVANCED TECHNOLOGY INDONESIA社の活躍が期待されます。

一方、中国をはじめASEAN地域の人件費はここ数年で15%から20%上昇しており、コストセーブと高付加価値化が事業成功のカギを握るとされています。現地拠点の経営指標の素早い把握で機敏な対応が欠かせぬものとなりそうです。

Q 株主総会で監査等委員会設置会社への移行が承認
されました。これによって何が変わのでしょうか？

監査等委員会設置会社は、この5月の会社法改正によって生



まれた新制度です。本制度を採用すると従来の監査役が廃止され、複数の社外取締役が選任されます。監査等委員会委員の過半数を社外取締役とすることで、取締役会の監督機能を強化し、企業統治（コーポレートガバナンス）の観点から企業運営の透明性がこれまで以上に確保されるものと期待しています。

Q 児玉化学工業は2016年に創立70周年を迎えます。
株主の皆様一言メッセージをお願いします。

通常、企業の事業サイクルの寿命は30年と言われます。70周年を迎える児玉化学工業は普通の企業の2サイクル以上も生きながらえて活動を続けてきたわけで、そこには先人たちの時代の動きを先取りする幾多の努力がありました。

今、児玉化学工業は、次の時代をにらんだ事業構造の改革に大胆に踏み出さなければなりません。自動車部品や住宅設備に続く、第三の柱をいかに育てていくのかが問われています。現在、新規事業はエンターテインメント事業としてひとくくりしていますが、最近は物流のグローバル化に伴い、積載効率と積み荷の安全性の両面からコンテナトレーのような物流素材の需要が急速に高まっています。当社の技術を活かした新しい取り組みとなりそうです。

児玉化学工業は、すでに売上・利益の半分以上を海外事業から得ており、事業規模に見合った体制整備と生産合理化の各種施策を実施し、いかなる経営環境であっても利益を確保し得る強固な事業基盤づくりを急がなければなりません。

株主の皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。